



・大槌型特別支援教育「けやき共育」が始まります

大槌型特別支援教育「けやき共育」は、大槌町の全ての子供たちが力を発揮できるよう、特別支援教育の視点で、一人ひとりに適した支援を障がいのある無しに関わらず、受けられることを目的としています。そのことで、不登校を未然に防ぐことも可能であると考えます。また、保護者に対しても様々な悩みや不安、困りごとに寄り添い、いつでも気軽に相談できる多様なニーズに対応した教育相談を提供するとともに、地域全体で子供の特性を理解し、受け入れ、支えることで、「誰一人取り残さない学びの保障」の実現を目指します。

「けやき共育」の達成目標

「けやき共育」(大槌型特別支援教育)の支援体制の構築
「誰一人取り残さない学びの保障」の実現

達成すべき最上位目標

特別支援教育の視点を入れ、子供たちの支援を行うことで

1 新規の不登校児童生徒を未然に防ぐことができる。

※ウェルビーイングの実現

2 不登校児童生徒へ適切な支援ができる。

「ウェルビーイング」は新しいことではなく、これまで大槌の教育が目指してきたことだね



「けやき共育」(大槌型特別支援教育)の事業内容

- 学校現場の特別支援教育支援員を4人から6人に増員
- つながり、居場所をつくる多様な学び場の整備
- 教員及び子供支援関係団体・保護者・地域を対象とした研修会や教育相談の実施
- 医療(児童精神科医)と教育の連携による特別支援の研究と充実、特別教育支援体制の構築

令和3年度、町内の不登校児童生徒出現率が急激に増加し、令和4年度には、震災以降最高となりました。

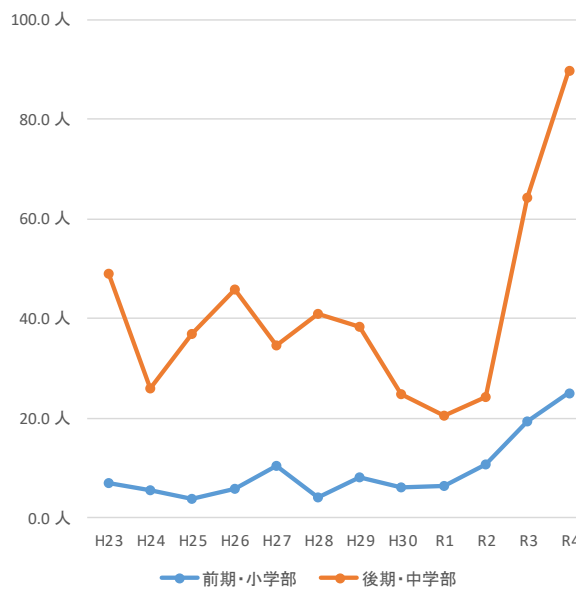
各学園の先生方は、それぞれの児童生徒、家庭に寄り添い、献身的に支援を続けてくださいました。また、関係機関と協働してチームで対応してくださいました。

しかし、新たに不登校児童生徒が増えるなど、どの児童生徒に対しても一層のきめ細やかな支援が求められています。

また、不登校児童生徒の中には、何らかの特性が一つの要因となっている場合も約30%を占めていると推測されます。

そこで、学校だけで抱え込むのではなく、町の将来を担う0歳から18歳までの子供たちを、町民総ぐるみで支援するための仕組みづくりとなる大槌型特別支援教育「けやき共育」をスタートすることにしました。

大槌町不登校児童生徒出現率の推移
(3月で30日以上欠席/1000人当たり)



「けやき共育（大槌型特別支援教育）」の体制



○ 「けやき共育」（大槌型特別支援教育）の事業内容の詳細

（ア） 「けやき共育」推進プロジェクトチームについて

教育委員会、各学園、教育支援機関、首長部局、地域、児童精神科医で構成し、「けやき共育」の確実な推進を図る。

（イ） 学習支援において個別最適な学びの場の設定や整備（つながり、居場所をつくる多様な学び場づくり）

⇒地域の公民館、こどもセンター「OLAI」、学校の別室等の学びの場とタブレットを使用したICT機器の活用

（ウ） 不登校児童・生徒への理解や特別支援教育の視点を取り入れた適切な支援の実施とウェルビーイングの理解

⇒教員及び子供支援関係団体・保護者・地域を対象とした研修会や教育相談の実施
研修会の内容(予定)

㊦ 木村泰子先生の講演会と映画「みんなの学校」の上映会の実施(文科に予算申請中)

※地域住民、各教育団体、教職員が不登校について共に考え学ぶ機会とする。

㊧ペアレントトレーニング

㊨特別支援教育に関する研修会

・特別支援教育担当者研修会 ・特別支援教育支援員研修会

・事例検討会 ・LDに係る研修会

㊩こころのサポートコーディネーター研修会

㊪児童精神科医による講習会、個別指導、相談会等

（エ） 定期的な児童精神科医の各園、各学園、高校への訪問支援

児童精神科医がそれぞれの段階で、関係する教職員に支援が必要な就学前の子ども、児童生徒の支援の在り方について助言する。

（オ） 精神科医の指導のもと、本町の特別支援体制を新たに構築する。